

上野天神祭：だんじり・しるしの説明

「しるし」は、「だんじり町」の近所の神、あるいは地元の誇りの象徴を表す小さな山車である。行列中は、各「しるし」は同じ町内の「だんじり」に先行する。「だんじり」は木製の山車で、現代の行列の山車の前身である。地元の伝説や仏教や神道の神々を称える「だんじり祭」は、日本では何百年に渡って人気がある。「だんじり町」の町民たちは、各祭りの前夜に、「だんじり」に幕を、提灯をそして各種の特別な装飾品を一生懸命飾りつける。

祭りにこれらの大きな山車を曳く数十人の参加者は、搭乗者と観客の安全を守るために、年中練習している。重い山車は何世紀も同じルートをたどったため、伊賀の町の道路には溝がついてしまっている。

行列の間、住民はお祭り用の衣装を身に着けて「だんじり」に乗り、最上階でひざまずいたり座ったりして楽器を演奏する。伝統的に、「だんじり」に乗ることができるのは、かつてはその地区住民だけであったが、今は違う。それぞれの山車は祭の期間中はその所属地区にて展示される。